

令和6年度第2回多摩市総合教育会議 要点記録

- 1 日時：令和6年11月15日（金）午前10時から正午
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席者

出席委員（6名）

市長	阿 部 裕 行
教育長	千 葉 正 法
委員	岩 佐 玲 子
委員	原 島 久 男
委員	比田井 秀 美
委員	小 林 昭 一

出席職員（15名）

企画政策部長	鈴 木 誠
教育部長	小野澤 史
教育部参事・教育指導課長事務取扱	山 本 勝 敏
財政課長	赤 松 勝 也
資産活用担当課長	萩 野 健太郎
教育振興課長	城 所 学
社会教育・文化財担当課長	齊 藤 義 照
公民館長	伊 藤 麻衣子
図書館長	渡 邊 哲 也
学校支援課長	櫻 田 芳 恵
学校給食センター長	佐 藤 彰 宏
教育部副参事	竹 田 昂 士
教育指導課統括指導主事	高 橋 篤
教育協働担当課長	野 原 敏 正
教育センター長	豊 島 佳 代

1 開会

阿 部 市 長 令和6年度第2回多摩市総合教育会議を開始する。

2 報告事項

事 務 局 配布資料の確認

(1) 多摩市立小・中学校の学校規模の現状と今後について

阿 部 市 長 それでは本日の議題に入る。報告事項1件目「多摩市立小・中学校の学校規模の現状と今後について」について、教育委員会より説明をお願いします。

櫻田学校支援課長 「資料1 多摩市立小・中学校規模の現状と今後について」に基づき説明

阿 部 市 長 それでは質疑に移る。このことについて、意見、質問等はあるか。

阿 部 市 長 都市計画マスタープランの改定に伴う市民ワークショップを開催し、学校は単に教育としての機能だけではなく、地域コミュニティの核とする視点が必要という意見があった。今後は地域コミュニティや防災の役割も視野に入れながら全市的な役割を果たしていく必要があるため、教育委員会と市長部局と連携して丁寧に進めていきたい。

3 協議・調整事項

(1) 令和7年度教育委員会の重点事項について

千 葉 教 育 長 令和7年度は第六次多摩市総合計画の3年目に入る。教育委員会でも、総合計画で掲げられた目指すまちの姿や取り巻く環境の変化に柔軟に対応していかなければならないと考えている。また来年度は現在教育委員会で策定を進めている第二次多摩市教育振興プラン（改訂版）の初年度であり、現プランの評価を行いながら喫緊の課題に対応していく。
教育委員より、資料2に基づいて合計8件の重点事項を説明する。

原 島 委 員 「資料2（1）市内小学校の環境整備について」に基づき説明

比 田 井 委 員 「資料2（2）国登録有形文化財の今後の方向性について」に基づき説明

小 林 委 員 「資料2（3）社会教育と家庭教育の推進について」に基づき説明

岩 佐 委 員	「資料２（４）自閉症・情緒障害特別支援学級の新設（増設）について」に基づき説明
原 島 委 員	「資料２（５）学校給食センターの建て替えについて」に基づき説明
比 田 井 委 員	「資料２（６）特別支援教育の推進について」に基づき説明
小 林 委 員	「資料２（７）不登校児童・生徒への支援や学びの多様化学校の設置について」に基づき説明
岩 佐 委 員	「資料２（８）教員の働き方改革と部活動の地域移行（連携）について」に基づき説明
千 葉 教 育 長	以上８点の重点事項を申し上げた。教育委員会としても持続可能な教育を将来世代に引き継いでいくために、教育課題を的確に捉え教育環境を改善し、子どもたちの生きる力を育み更に豊かな地域づくりに向けて、多摩市が目指す姿を具体化したいと考えている。
阿 部 市 長	（１）市内小学校の環境整備について質疑 全国的に地球沸騰化と言われる中で、快適に過ごすというよりも命を守るという観点で、エアコンは小学校の体育館に必要なだと感じている。多摩第三小学校の建て替えについては、隣接地権者とのやり取りが続いているかと思うが、地域の防災拠点やコミュニティの核として活用できることを期待している。建て替えについて現在の状況を伺う。
城所教育振興課長	多摩第三小学校の隣接地権者は６名おり、全ての方に会って事業の説明を行い、事業内容をご理解いただいた状況である。協力していただけるよう今後も交渉していく。
阿 部 市 長	交渉については困難かと思うが、継続して続けていただきたい。体育館のエアコンについては適切に設置ができるよう、市の歳出を抑制して財源の確保に努めていく必要がある。
阿 部 市 長	（２）国登録有形文化財の今後の方向性について質疑 川井家の利活用についてどのようなことを考えているか。
齊藤社会教育・文化財担当課長	保存活用について今年度、来年度で検討し方針を立てていきたいと考えている。具体的には市内の策定委員会のほか、公園、建築など歴史的建造物の有識者の方に集まっていただいて意見を伺い、計画を立てていく。今年度は策定委員会を２回、有識者会議は１回開催しており、全６、７回で保存活用計画をまとめていく予定である。
阿 部 市 長	課題は様々あるが、市の財産として具体的に有効活用できるよう、引き続き検討していただきたい。

またシダレザクラについては元気がないように見受けられるため、今後
も適切に対応していただきたい。

阿 部 市 長

（３）社会教育と家庭教育の推進について質疑

公民館として、地域力の向上についてどのように考えているか。

伊 藤 公 民 館 長

公民館はこれまでも長期休暇を利用して、子どもたちへの事業の展開やロビーの開放などを実施してきた。活動が多様化する一方で子育て世代が孤立することは課題と考えている。

また、子育て世代を中心として事業を展開しており、昨年度から保護者グループがいくつかできている状況である。今後はグループを支援するための諸室の貸し出しや、グループ単位で活動できる事業の展開を実施したい。

一方高齢化も課題であり、高齢者の移動が困難といった現状から、身近なコミュニティセンター等の地域の施設を活用して、事業が展開できるよう進めていきたい。

阿 部 市 長

中央図書館が１００万人達成したが、来館者がゆったり本を読むことや学習できるスペースが不足しているという課題もある。今後の取り組みについて伺いたい。

渡 邊 図 書 館 長

中央図書館は８月に１００万人を突破し、休日は若い人を中心に列を作って並ぶ状況である。荷物を置いたまま離れてしまう方もおり、多くの方が利用できるよう仕組みづくりをしていきたいと考えている。

中央図書館含めて様々なイベントを企画し、市内８館を様々な方に利用していただきたい。

阿 部 市 長

全国には一軒も書店が無い自治体が増えている。図書館と地域の書店が連携し、どう活性化させていくのか、考えがあれば伺いたい。

渡 邊 図 書 館 長

中央図書館と地域の書店が連携し、読み聞かせ等のイベントを実施している。書店も日常的に忙しいが、時間を調整して連携してきた。今後も継続するためには、負担を軽減して実施することが重要である。今年度実施した状況を踏まえ、工夫しながら取り組んでいきたい。

小 林 委 員

中央図書館に情報を集約したことで、その他の図書館で空いたスペースを活用し、ヤングケアラーや子どもの推薦本を展示するなど、様々な企画を実施している。中央図書館へ集約するだけではなく、それぞれの図書館で工夫をして個性が出ているところもある。図書館の原点は本があるところであるため、本に重点を置いて様々な企画を行うなど活用していきたい。

阿 部 市 長

デジタルの活用が進んでいることで、子どもの目に関する心配もある。液晶で本を読むこともよいが、実際に本に触れる温もりは重要視してい

く必要がある。日常的に忙しい中で実施するのは困難だと思うが、工夫してほしい。

阿 部 市 長

〔４）自閉症・情緒障害特別支援学級の新設（増設）について質疑

令和８年度までに、中学校１校に自閉症・情緒障害特別支援学級を開設したいとあるが、現在の進捗状況や保護者の要望にどの程度答えられているかを伺いたい。

櫻田学校支援課長

中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級は２校に設置しており、学級数は多摩中学校では７学級まで増えている。需要が増えてきているが、これ以上は増やせない状況である。令和８年度に開校できるよう準備を進めているが、施設面に係る予算や、通学区域の平準化など課題が残る。様々な課題がある中で地域の理解と協力を得られるよう検討していく。

阿 部 市 長

〔５）学校給食センターの建て替えについて質疑

学校給食センターは早期に建て替える必要があると考えている。学校給食センターの建て替えについて、進捗状況を改めて伺いたい。

佐藤学校給食センター長

建て替え計画の策定に向けて、令和６年度と令和７年度の２か年で「学校給食センター建替基本計画策定支援等業務委託」によって、建設予定地の検討等を進めている。学齢期や心身の成長という意味では給食は非常に重要であり、できる限り早い対応をする必要がある。計画は様々な方からの意見を取り入れる必要があるため、それに向けて準備を進めている。

阿 部 市 長

〔６）特別支援教育の推進について質疑

第二次多摩市特別支援教育推進計画が４年を経過し、高校生によるグループディスカッションなども成果をあげているとも聞いている。多摩市として積極的に取り組むべき課題などがあれば伺いたい。

豊島教育センター長

今年度から第三次多摩市特別支援教育推進計画の策定に着手しており、これまでに有識者会議を３回実施し、第二次計画の取り組み状況を踏まえながら、内容を検討している。その一環として高校生のグループディスカッションを実施し、意見を聞き取った。インクルーシブ教育システムや、合理的配慮の観点に重点を置いて議論を進めている。

阿 部 市 長

〔７）不登校児童・生徒への支援や学びの多様化学校の設置について質疑

あたご Space の活用を踏まえて、学びの多様化学校の設置を進めていきたいとのことだが、あたご Space の運用状況や子どもたちの評価、学びの多様化学校の検討状況について伺いたい。

野原教育協働担当課長

あたご Space は現在１７人利用しており、ゆとりをもって運営できている。子どもたちからも、教員と密に話せる上にゆったりとしていてよい、

という意見がある。全国的に不登校が増えている現状があり、あたご Space に加えて学びの多様化学校の設置を進めている状況である。

阿 部 市 長 不登校の生徒が少しでも通える状況を作ることや、新たな活動のきっかけとする場になることが重要と考えるが、どの程度の人数を対象として運営することができるのか。

野原教育協働担当課長 あたご Space が上手く運営できているのは、教員が子どもたちと密に関わることができていることが大きい。新しい分教室についても、基本的には10人前後の人数がよいと考えている。

阿 部 市 長 (8) 教員の働き方改革と部活動の地域移行(連携)について質疑
部活動の地域移行については、教育委員会でわかりやすいニュースレターを作成して周知していただいているが、現在の進捗状況について改めて説明していただきたい。

高橋教育指導課
統括指導主事 令和6年6月からこれまでに5回協議会を実施しており、東京都へ部活動の推進計画を提出した。持続可能な部活動の地域移行について協議会でも検討しているが、国や東京都から財政的な援助に関する具体的な方針の説明はまだない。

子どもたちのスポーツや文化的な活動について、地域の協力を得ながら機会を確保していく一方で、教員の働き方改革についてもアンケートを実施しながらガイドラインの策定を進めている状況。ガイドラインの策定にあたっては、東京都に限らず同規模の自治体を参考とし、学識経験者や保護者の方の意見も踏まえて検討している。情報が限られてはいるが、ニュースレターも含めて安心して持続可能な教員の働き方改革と、部活動の地域移行の協議が進められるように発信していきたいと考えている。

阿 部 市 長 子どもたちの様々なチャレンジの機会を増やしていくということだと感じているので、支えていただくための支援の枠を国や東京都にも作ってもらいたいと考えている。多摩市ならではの方法を協議して、今後取り組んでいただきたい。

小 林 委 員 先月参加した東京学芸大学のシンポジウムで聞いた内容で、小学生までは地域のクラブで活動している子どもたちが、中学生になるとなぜ学校の部活動へ移行してしまうのか、という問題提起に非常に共感した。土日に市内公園を周り、どの程度スポーツ活動をしているのか確認したところ、ほとんどの公園で大人と子どもがスポーツを楽しんでいた。

2年前に多摩市のスポーツ教室の状況を調べた際、野球では子ども200人に対してコーチが91人、サッカーでは子ども752人に対してコーチが184人、ラグビーでは子ども269人に対してコーチが123人と、

比較的充実している体制だった。

全国的に担い手不足と言われているが、多摩市では昔から培ってきた財産があり、そのリソースがどの程度あるのか、活用できるのか把握することが大事であるとする。来年度以降部活動の地域移行を検討する際に、多摩市が有しているリソースを活かして地域の方と意見交換しながら実施するとより良いものができるのではないかと考える。

岩佐委員 子どもたちが地域のスポーツ教室に通い、その父親もコーチを務めていることが多い。子どもたちが卒業しても父親の会でつながり、コーチを継続する場合もある。そのような方たちのおかげで地域のスポーツ教室が成り立っているということがわかった。

また女性が子育てをしながら、子どもたちの文化活動やスポーツ活動に関われるような環境づくりも必要ではないかと感じた。

スポーツで活躍したい子もいれば楽しみたい子、友達が欲しい子など様々な子どもがいる。目的も多様化している中で、子どもたちがどのようにすれば幸せに暮らしていけるのか、ということを地域で考えていけるような社会にしていくことが必要。そのためにも今まで当たり前だった考え方を当たり前とせず、全体の空気や雰囲気を変えていかなければならないと改めて感じた。

小林委員 多摩市で育った子どもが大人になって転出しても、再び地元の多摩市へ帰ってきてもらえるような環境を作れるとよい。市内のサッカークラブで、毎年年末に5,60代から小学生まで、世代ごとに試合を繰り返し行うイベントがある。どの世代も同じ競技を同じ環境でできることが、多摩市の強みであると感じている。

4 その他

非公開会議の実施

5 閉会

阿部市長 その他質問もないことより閉会とする。

以上